



～ 技術資料 ～ 通信ポート

資料をご利用の際にはWebサイトをご確認いただき、最新の技術資料をお使いください

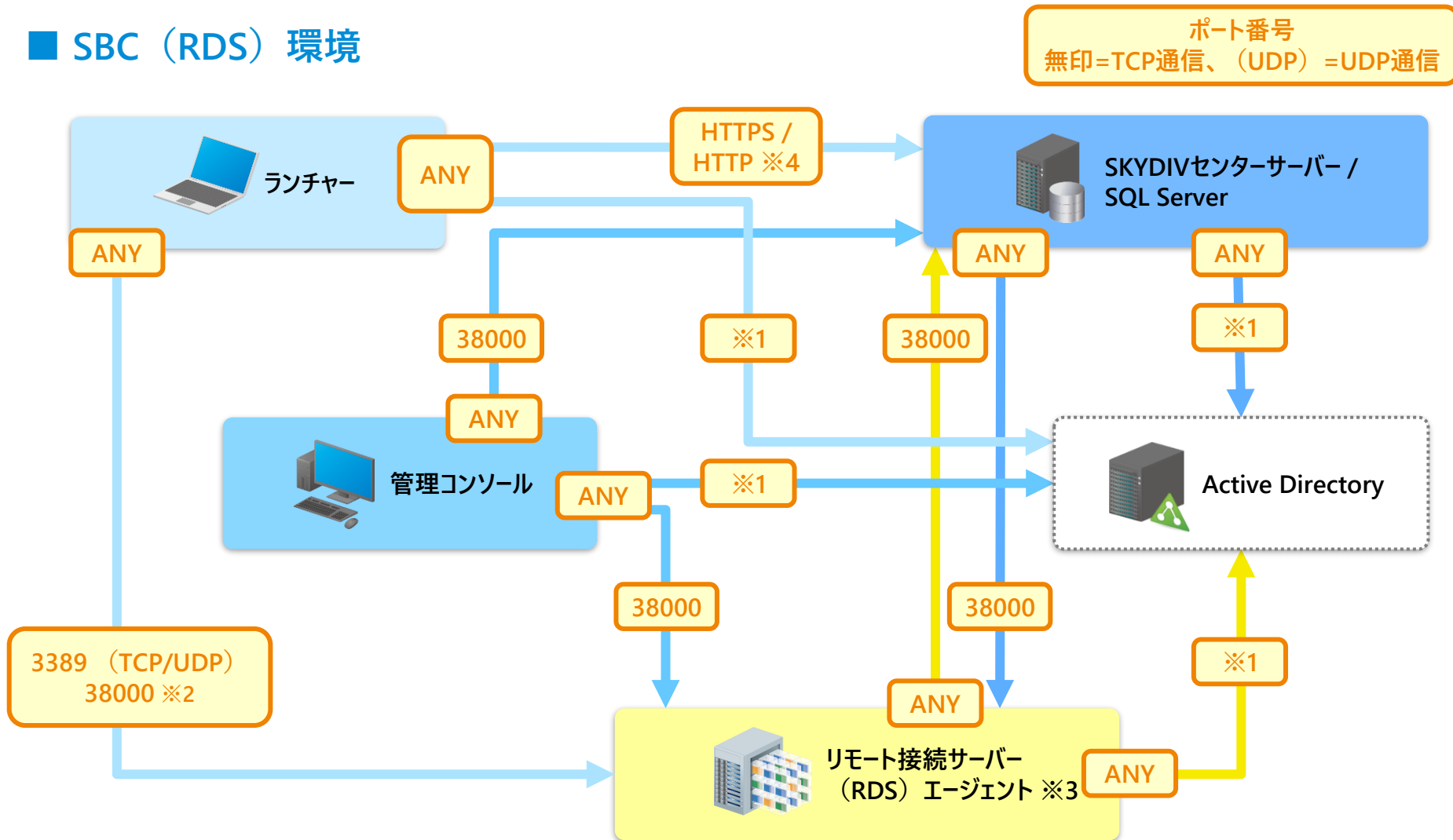
資料の目的

- SKYDIV Desktop Clientで使用するポートをご確認いただくための資料です。
- 資料更新日時点のSKYDIV Desktop Client最新バージョンでの対応状況となります。
- 記載内容は初期値を表しております。

●SKYDIV および SKYDIV Desktop Client は、S k y 株式会社の登録商標です。●Linux® は、Linus Torvaldsの登録商標または商標です。●その他記載されている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。●本文中に記載されている事項の一部または全部を複製、改変、転載することは、いかなる理由、形態を問わず禁じます。●本文中に記載されている事項は予告なく変更することがあります。

通信の流れ -1-

■ SBC (RDS) 環境



※1 Active Directoryへの通信で必要となるポート番号を利用します。

(ランチャーからActive Directoryへの通信は、ランチャーを介したパスワード変更機能の利用時やパスワード認証失敗時に必要です。通信不可の場合は、センターサーバーを介して通信します。)

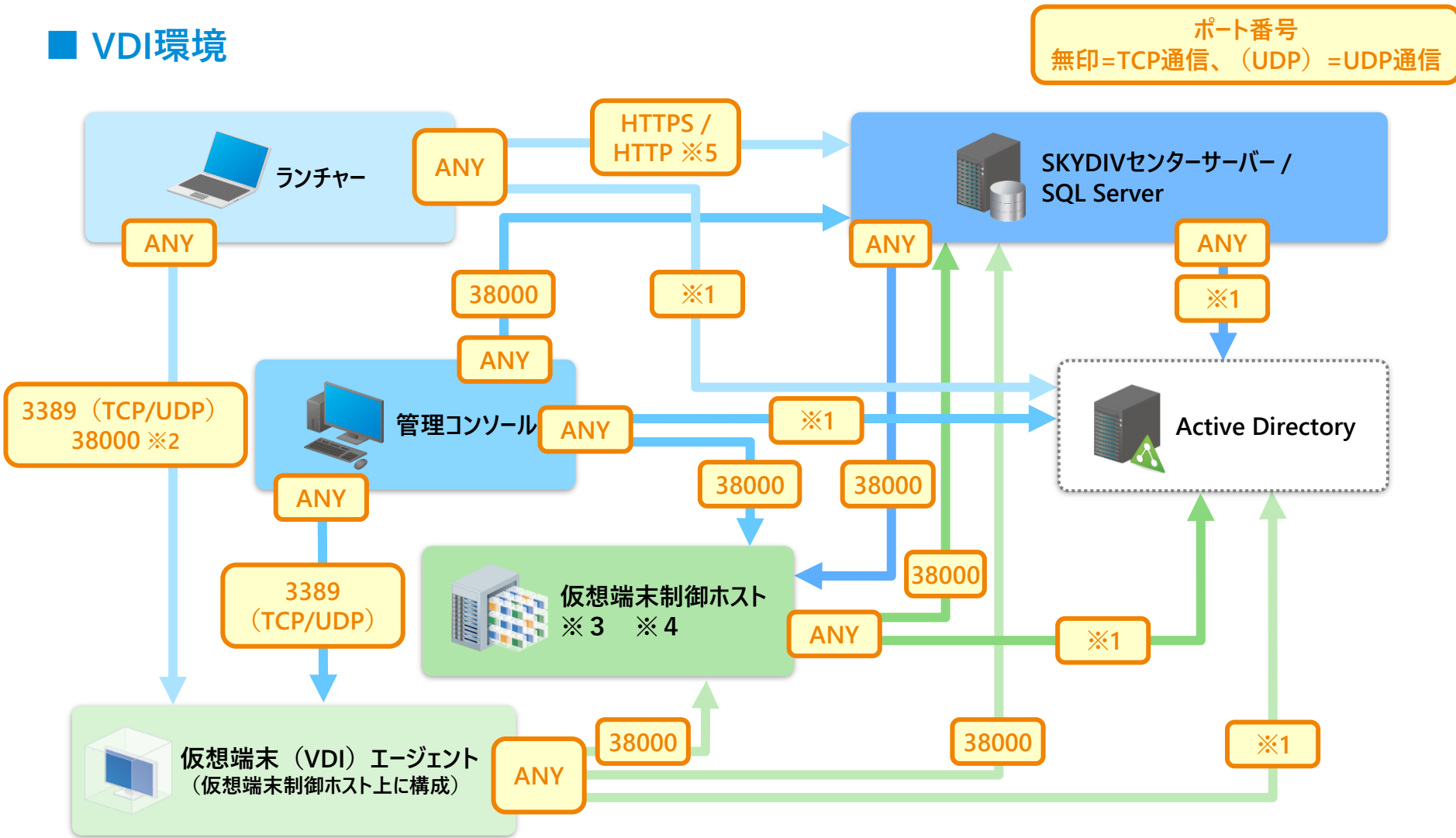
※2 ランチャー (macOS) からのリモート接続時と、ランチャー (macOS、Linux) からファイル無害化機能を利用する際に利用します。

※3 RDライセンスサーバーとリモート接続サーバー (RDS) エージェント間の通信については、Windowsで必要なポート番号を利用します。

※4 HTTPS / HTTP で利用するポート番号は任意の番号に指定可能です。

通信の流れ -2-

■ VDI環境



※1 Active Directoryへの通信で必要となるポート番号を利用します。

(ランチャーからActive Directoryへの通信は、ランチャーを介したパスワード変更機能の利用時やパスワード認証失敗時に必要です。通信不可の場合は、センターサーバーを介して通信します。)

※2 ランチャー (macOS) からのリモート接続時と、ランチャー (macOS、Linux) からファイル無害化機能を利用する際に利用します。

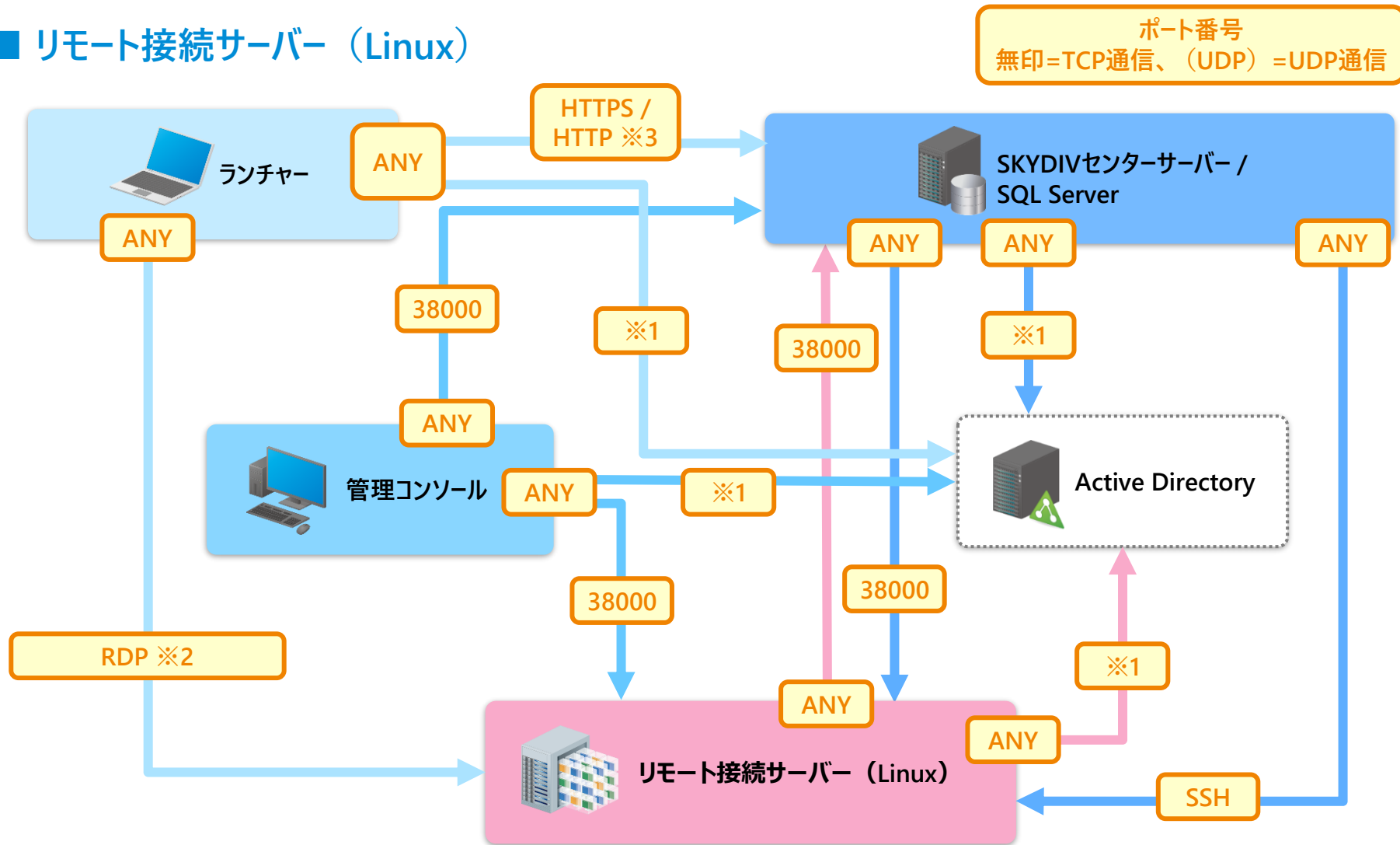
※3 Windows フェールオーバークラスタ環境の場合、仮想端末制御ホスト間で、ポート番号38000及びWindowsに必要なポート番号を利用します。

※4 複数台の仮想端末制御ホストがある環境でVDIを利用される場合、仮想端末制御ホストサーバー間で445ポートを利用します。

※5 HTTPS/HTTP で利用するポート番号は任意の番号に指定可能です。

通信の流れ -3-

■ リモート接続サーバー (Linux)



※1 Active Directoryへの通信で必要となるポート番号を利用します。

(ランチャーからActive Directoryへの通信は、ランチャーを介したパスワード変更機能の利用時やパスワード認証失敗時に必要です。通信不可の場合は、センターサーバーを介して通信します。)

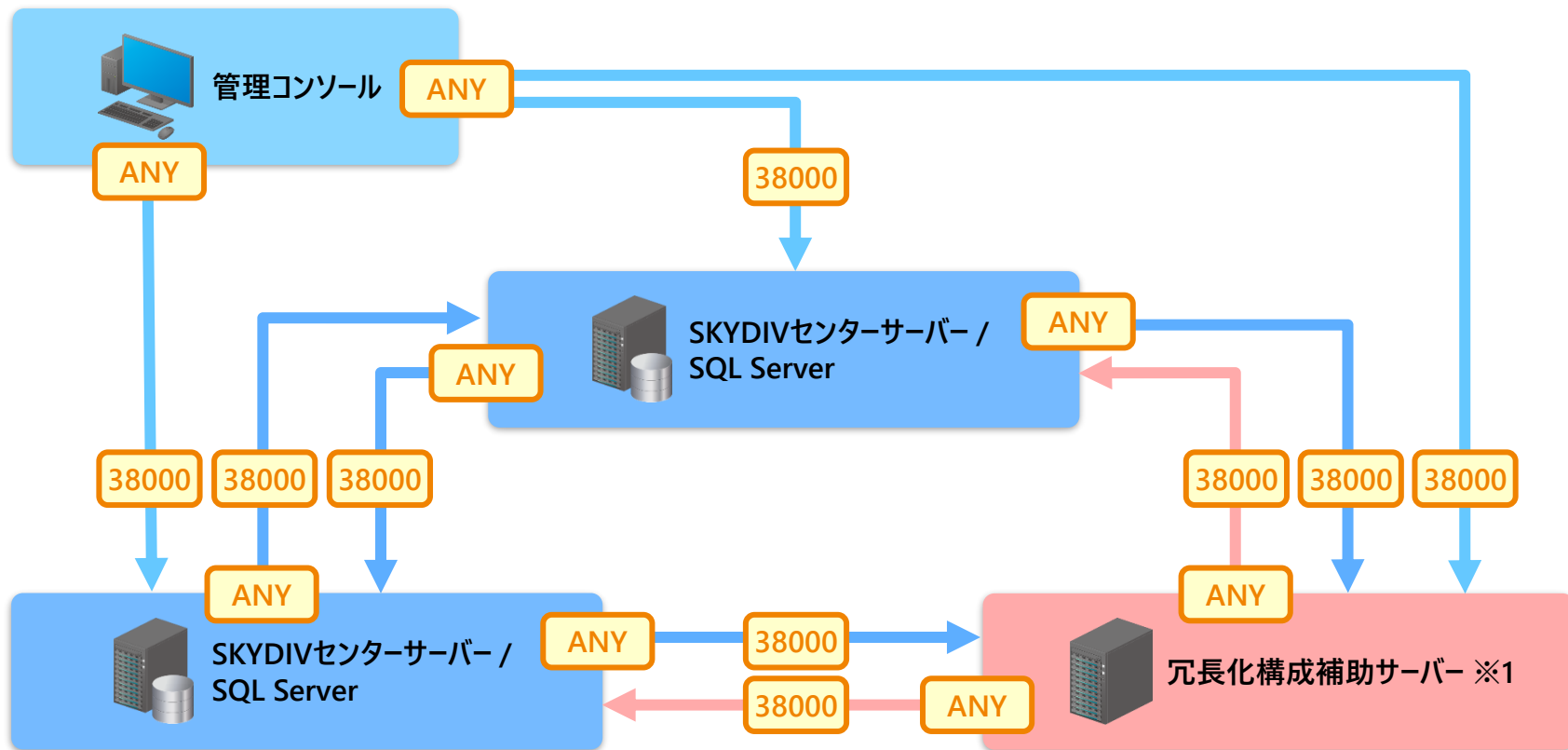
※2 カタログ作成時に指定したポート番号 (1024~65535) から接続上限数まで連番で使用します。

※3 HTTPS/HTTP で利用するポート番号は任意の番号に指定可能です。

通信の流れ -4-

■ データベース冗長化

ポート番号
無印=TCP通信、(UDP) =UDP通信

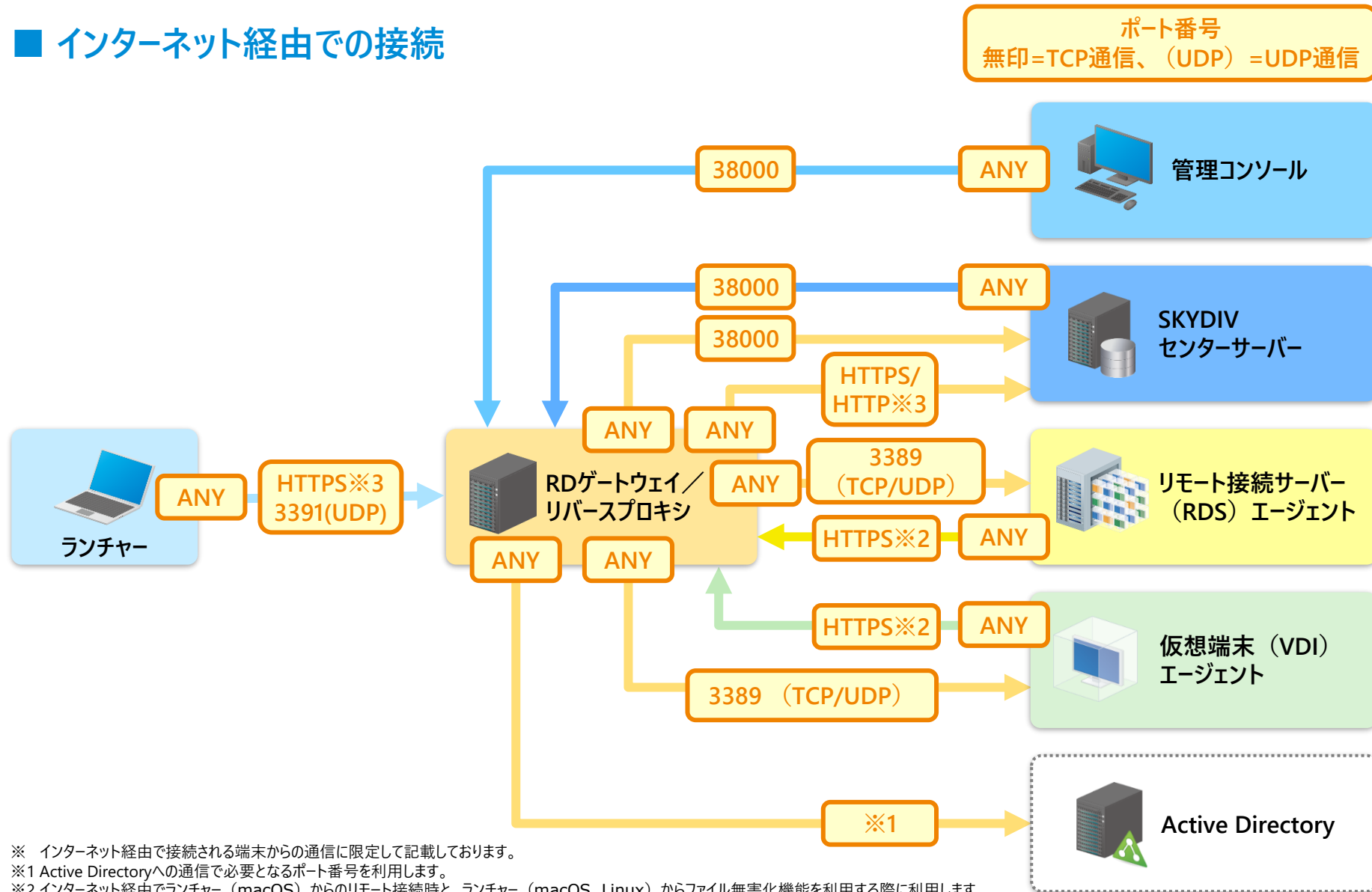


※ データベースは、Microsoft SQL Server Express Editionに対応しております。

※ 1 冗長化構成補助サーバーは、リモート接続サーバー（RDS）/リモート接続サーバー（Linux）/仮想端末制御ホストが自動的に指定されます。他のサーバーに単体でインストールすることも可能です。

通信の流れ -5-

■ インターネット経由での接続



※ インターネット経由で接続される端末からの通信に限定して記載しております。

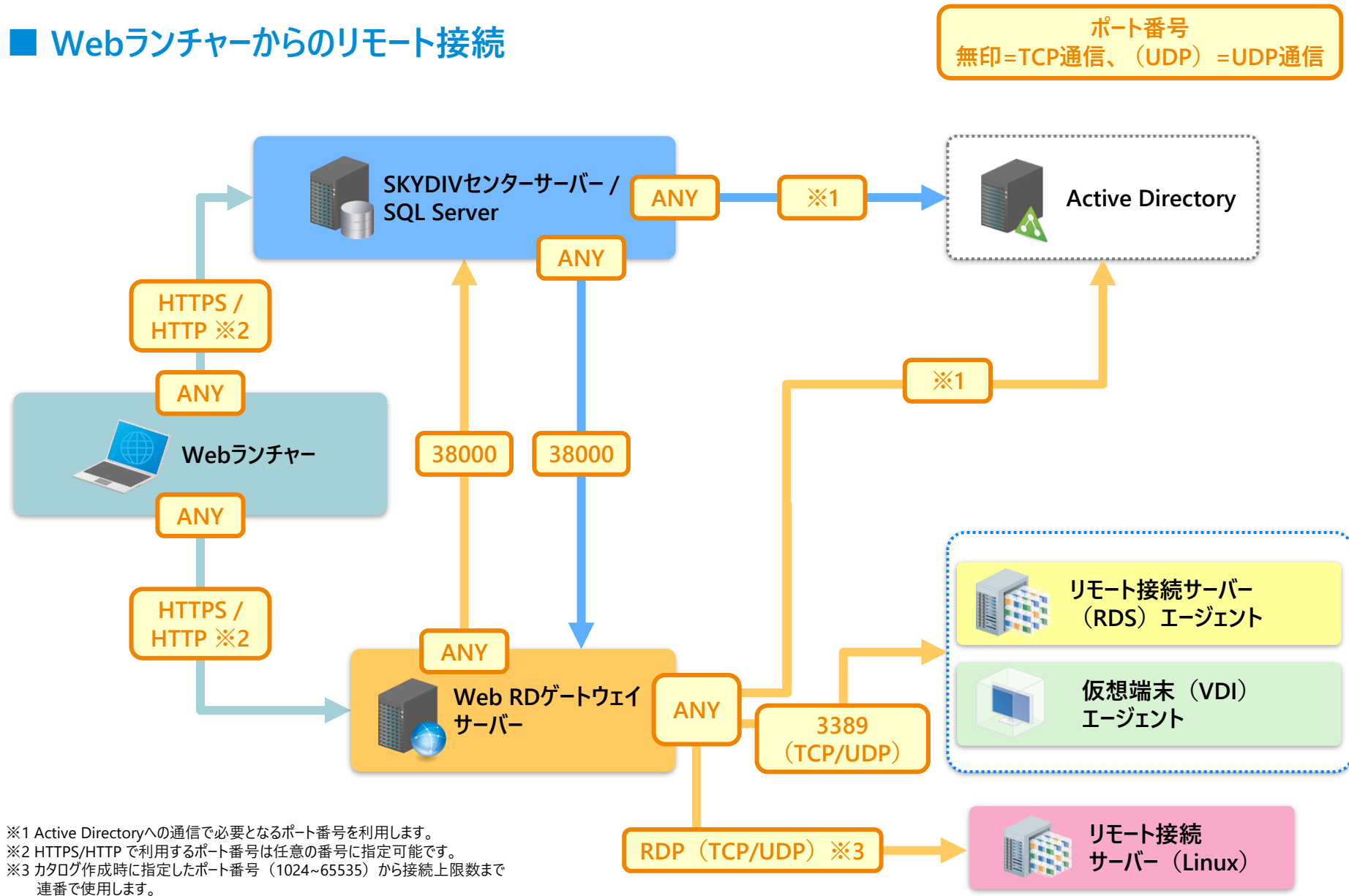
※1 Active Directoryへの通信で必要となるポート番号を利用します。

※2 インターネット経由でランチャー (macOS) からのリモート接続時と、ランチャー (macOS、Linux) からファイル無害化機能を利用する際に利用します。

※3 HTTPS/HTTP で利用するポート番号は任意の番号に指定可能です。

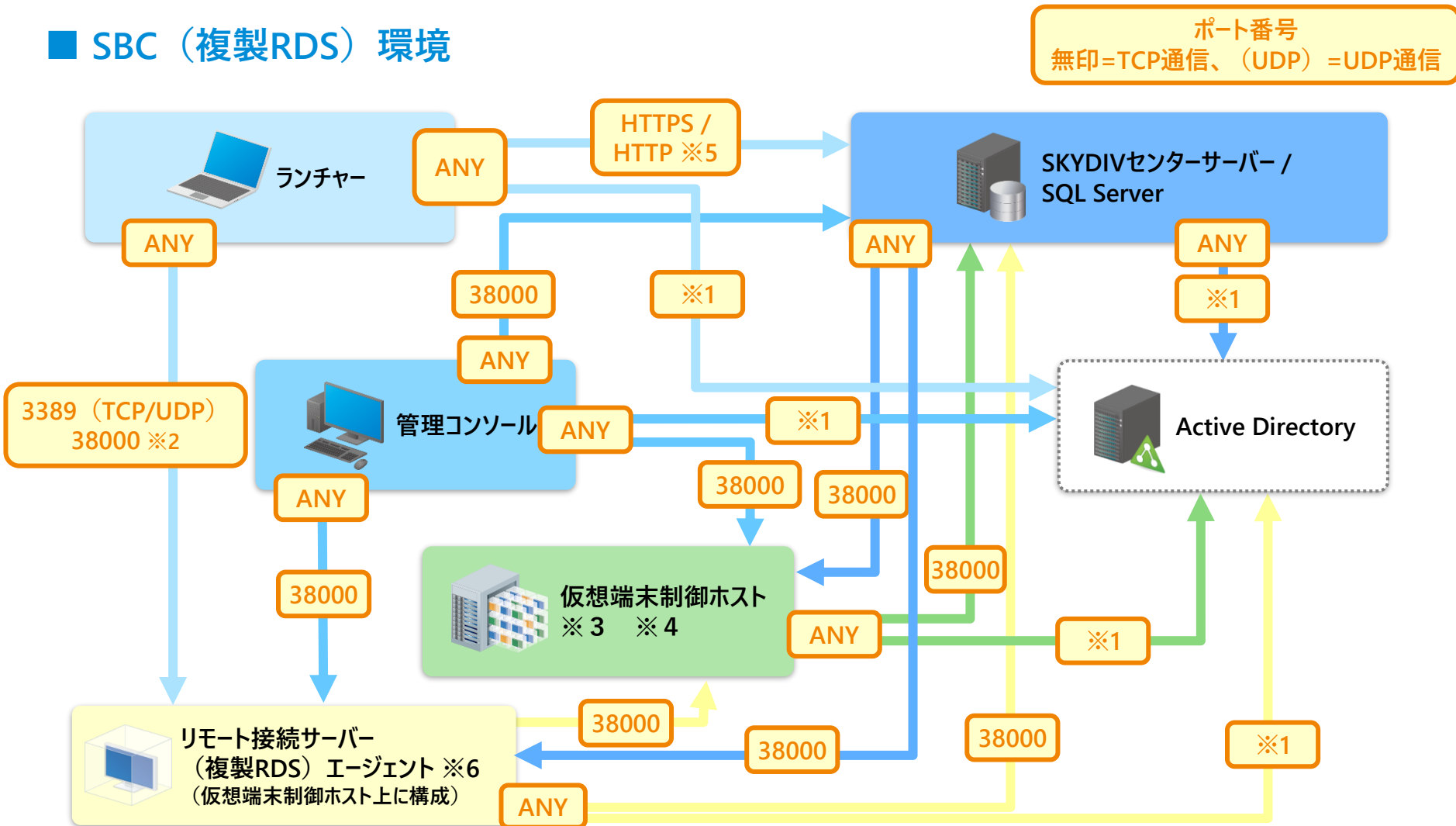
通信の流れ -6-

■ Webランチャーからのリモート接続



通信の流れ -7-

■ SBC（複製RDS）環境



※1 Active Directoryへの通信で必要となるポート番号を利用します。

(ランチャーからActive Directoryへの通信は、ランチャーを介したパスワード変更機能の利用時やパスワード認証失敗時に必要です。通信不可の場合は、センターサーバーを介して通信します。)

※2 ランチャー (macOS) からのリモート接続時と、ランチャー (macOS、Linux) からファイル無害化機能を利用する際に利用します。

※3 Windows フェールオーバークラスタ環境の場合、仮想端末制御ホスト間で、ポート番号38000及びWindowsで必要なポート番号を利用します。

※4 複数の仮想端末制御ホストがある環境で複製RDSを利用される場合、仮想端末制御ホストサーバー間で445ポートを利用します。

※5 HTTPS/HTTP で利用するポート番号は任意の番号に指定可能です。

※6 RDライセンスサーバーとリモート接続サーバー (複製RDS) エージェント間の通信については、Windowsで必要なポート番号を利用します。

使用ポート一覧

項目	通信ポート	
1	TCP 38000	SKYDIV Desktop Client の各機能で使用
2	HTTPS / HTTP	
3	TCP 3389	
4	UDP 3389	
5	UDP 3391	
6	SSH	

【注意点】

使用するポート番号は初期設定値になります。
初期値から変更が可能なポート番号は項目1・2です。